

小中学校を対象とした教育の情報化推進モデルの開発

森下 孟

信州大学教育学部附属教育実践総合センター・特任助教

morisita@shinshu-u.ac.jp

キーワード：ICT 活用教育，教育の情報化，附属学校園，協働学習

1. 自分を紹介・アピールしよう！

出身地：長野県飯田市（リニアモーターカーの駅をどこに作るかで揉めていたところ）

略 歴：2009年3月 信州大学大学院教育学研究科 修了，修士（教育学）

2012年3月 信州大学大学院総合工学系研究科 修了，博士（学術）

2012年6月～ 信州大学教育学部・特任助教

3年前の「教育システム若手の会」に初めてお邪魔させていただき，今回で3回目の参加となりました。前回の会場幹事に引き続き，今回はプログラム幹事を務めさせていただきます。なお，すでにネタと化していますが，私の年齢は皆様のご想像にお任せします（笑）

2. 自分の研究内容を紹介しよう！

文部科学省「学びのイノベーション事業」や総務省「フューチャースクール推進事業」など，「教育の情報化ビジョン（2011年4月）」に基づき初等中等学校での教育の情報化が進められています。これらの事業対象校では多くの予算が付けられ，1人1台の学習端末や高速ネットワーク環境の整備が行われています。

しかし，一般の学校ではこれほど大規模な予算が付されることはなかなかなく，限られた予算内で教育の情報化を進める必要があります。また，各学校で機器導入などを進めるにあたってはある程度の知識が必要であるとともに，教育の情報化を進めるにあたって「まず何をすべきか」など具体的な方略は明確に示されてはいません。

そこで，私は教育の情報化を牽引する役割を持つ附属学校において，どのような人材・手順のもとで教育の情報化を進めていけばよいかを実践を通じて明らかにするとともに，「義務教育諸学校における新たな教材整備計画」にある地方交付税内で実現可能な機器・ネットワーク整備など，教育の情報化推進モデルづくりに関わる研究に取り組んでいます。

3. 教育支援システムを提案しよう！

自動黒板消しシステム：

黒板をキレイに消すためには時間がかかり，限られた休み時間中に子ども達が黒板を消していると次の授業時間に遅れてしまう問題があります。このシステムは黒板横にあるボタンを押すだけで，黒板消しが自動的に上下左右に動き黒板をキレイにしてくれるため，子ども達の手を必要とせず黒板消しに要する時間をなくすことができます。